

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘
編集人 片岡 伸子

定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.652

- ★「こどもの読書週間」ポスター完成(2頁)
- ★「こどもの読書週間」開催にあたって(3頁)



「こどもの読書週間」によせて 学ぶ、楽しむ、旅をする… 本と子どもの可能性

公益社団法人読書推進運動協議会理事
ひかりのくに株式会社代表取締役社長

おかもと
いさお
岡本 功

「父はしばしば私たち6人の子どもに本を見せたのです。そのとき子どもは必ず前もって石鹸で手を洗わせられたものです。当時私は3、4歳で、洋書の中の絵を見せてもらったのですが、そうしたことで、幼いころから本の重要性を感じたと思います」

大正3年生まれの祖父が残したことはですが、本とは大切なものだという気持ちと、なにより本を見せてもらえるとワクワクした気持ちを感じます。現代においても幾多ものベストセラーと言われる本があり、同じ本のページをめくる多くの人々が期待に胸を踊らせています。本をめぐる気持ちは百年の時を経て変わることはありません。

一方でデジタル化の波はとどまるところを知らず、教科書の分野にまでデジタル化が押しよせています。小学生にとっては偉人の顔に落書きをして見せあうのもひとつの学びですし、幼児期には保護者の携帯電話ではなく、好きなときに自分の本を読んでみる。そして読後に片づけをする、というのも重要なことです。幼児期こそ紙の本にふれてほしいと切実に願います。大きくなれば嫌でも携帯電話にふれる時間が増えるのですから。

私は幼稚園で理事長をしておりませんが、今年度の年長さんは世界旅行をテーマに、さまざまな造形物を作ってくれました。ほとんどの園児は海外に行つたことがあります

ん。しかし、園にある本などを頼りに、みんなで相談しながら、そして想像に夢を膨らませながら、創作に取り組んでくれました。エジプトやブラジル、そしてイエメンなど、思いもよらない国をピックアップして、どうしたらその国の雰囲気を出せるかなと工夫した様子に、ご家族の方も喜んでいただけたと思います。

次回の冬季オリンピックはミラノ・コルティナダンペツツオ大会ですが、この遠く離れたふたつの土地の間にある街が「ロミオとジュリエット」の舞台となつたヴェローナです。シェイクスピア本人は英国から出たことはなかったと言われていますが、この戯曲が書かれた16世紀末、当時買

易で栄え、そして出版も盛んであつたヴェネツィアから英国に輸入された書物などに着想を得て、シェイクスピアはさまざまな作品を執筆しました。

本を通じて、行つたことのない世界に想いをよせる。これは子どもに限つたことではありません。アガサ・クリステイーのようにオリエンタ急行に乗つた経験から作品を書く人もいれば、シェイクスピアや子どもたちのように、本を通じて想像の世界を膨らませることも可能です。旅に行くか行かざるか、本を読んだから考えてみるのも楽しいことでしょう。

感染症の拡大で、いまは読後に手を洗う人の方が多いかもしれません。しかし、読後だけでなく読書の前も手を洗つて、一冊一冊の本の紙を、吟味され綴じられた本の手ざわりを、思う存分楽しんでいただけたら、そして本を通じて世界の様子に想いを馳せていただければ、出版人としてこれ以上の喜びはありません。



ひとみキラキラ 本にひとみキラ



はじまります！

2022・第64回 こどもの読書週間 4/23～5/12

すべての子どもへのひとみが キラキラする20日間に！

公益社団法人 読書推進運動協
議会は3月中旬、「2022・第
64回 こどもの読書週間」を
するにあたっての協力をお願いを、
全国の読書推進運動協議会、公
共図書館、報道機関、関係者など
みなさんにお送りいたします。

当協議会のホームページでは、
ポスターとマーク、標語をあし
らったロゴ(タイトル)の画像デー
タを掲載しております。マークは
イラストレーターファイルもダウ
ンロード可能です。今回は、ポッ
プ、しおり、ブックカバーのPD
Fデータも2月末より掲載してい
ます。告知や飾りつけなど、幅広
くご利用ください。

今回の標語は652点の応募作
から選ばれた「ひとみキラキラ
本にひとみキラ」。作者の後藤千鶴
子さんは、「図書館や小学校で読
み聞かせボランティアをしている
と、聞く子どもたちの瞳が本当に
キラキラ輝いています。その光景
を思い出しながら書きました。キ
ラキラの瞳、本を好きな気持ち、
ずっと持っていてほしいなと願っ

ています」と、読み聞かせ現場経
験者ならではの思いを、語ってく
れました。またマスクが必要な今
年の「こどもの読書週間」、キラ
キラのひとみがいつそう、際立つ
かも？

今年もポスターは岸井良二さん
の絵で制作。絵は絵本『ルフラ
ンルフラン2 本のあいだのく
にへ』(アチグラパブリッシング)
から選んで、杉浦康平事務所が
デザインしました。

ポスターは、3月中旬以降順次、
公共図書館(都道府県立図書館へ
送付)、学校図書館(全国学校図
書館協議会を通じて送付)、書店
(日本出版取次協会を通じて送付)
読書推進運動協議会会員、後援団
体、関係団体などへお送りします。
残部もごさいいますので、希望者は
事務局までお申しつけください。

一昨年は激減した「こどもの読
書週間」行事報告は、昨年、ほぼ
例年なみに回復しました。しかし、
保育園・幼稚園の休園、学校の休
校・学級閉鎖のニュースも続いて
おり、行事の開催にはまだまだこ

苦勞が絶えないことと存じます。
昨年の行事報告では、再開したお
はなし会やワークショップでの子
どもたちの笑顔、保護者の安らい
だ顔がうれしかったというコメン
トも多数いただきました。各地の
事情が許す範囲で、子どもたちに
本・おはなしを手渡ししてください。

【読書推進運動協議会 事務局】
TEL 03-52244-5270
FAX 03-52244-5271
e-mail info@dokusyo.or.jp
(ドメインは「dokusyo」ではな
く「dokusyo」です。ご注意ください)
ホームページ
<http://www.dokusyo.or.jp>



昨年はオリンピック・パラリンピック
関連展示も(2021年香川県三豊市)

2022・第64回「子どもの読書週間」開催についてのお願

公益社団法人 読書推進運動協
議会は、恒例の春の行事「こどもの
読書週間」を本年も主催いたしま
す。

一昨年は新型コロナウイルス感
染症拡大による緊急事態宣言のも
と、行事・イベントの中止・縮小
が余儀なくされた「こどもの読書
週間」ですが、昨年は感染症対策
の工夫も進み、ほぼ例年なみの行
事主催者数となりました。不透明
な状況が続いておりますが、子ど
もたちへ読書の喜びを届けるため
に、本年も地域、現場の許す範囲
でのご協力をお願い申しあげま
す。

今年の標語は『ひとみキラキラ
本にとぎとぎ』です。期間中関係
各位によって全国的に実施される
行事は、この標語を中心に展開さ
れることとなります。

幼少のときから書物に親しみ、
読書の喜びや楽しさを知り、もの
ごとを正しく判断する力をつけて
おくことが、次の世代を担う子ど
もたちにとって、どんなに大切で
あるかはいまさら申しあげるまで

もありません。本を読み、読んで
考え、考えて行動する子どもたち
が育つならば、青少年に関する多
くの問題点も解決されるのではな
いでしょうか。

「こどもの読書週間」は子どもた
ちに、よい本やよい雑誌に親しむ
ことをすすめ、読書の楽しみや喜
びを知らせ、正しい読書の習慣を
身につけてもらう好機です。そし
て同時に大人にとつては、子ども
の読書がいかに大切なことか、よ
い本や雑誌を手渡すためにはどう
いう努力をしたらよいか、という
ことについて考える機会でもある
といえましょう。

公益社団法人 読書推進運動協
議会では「こどもの読書週間」の
テーマとして『家庭・地域読書の
すすめ』をとりあげ、「家庭・地
域に子ども文庫をつくらう」「親
子読書を育てよう」など、家庭・
地域における、「子どもの読書推進
に力をそそいできました。」

家庭における読書環境の整備は、
以下の3点がたいへん重要です。

(1) 幼児には父母が本を読んで聞か
せてあげる。

(2) 子どもたちの身近にいつも本を
置くことを考え、毎日たとえ
短い時間でも本を読むことを
すすめ、本を読むのを聞いて
あげる。

(3) そして大切なことは、父母みず
からが読書する姿を、子ども
たちの眼にふれさせる。

やがて、そこに本を中心とした
話題が生まれ、親子の対話に発展
することは明らかです。

地域の公共図書館、公民館、P
TA、学校図書館、子ども文庫・
地域文庫のボランティアなどによ
る、子どもたちへの読書指導、読
書普及活動、これらががっちり手
を組んでいくならば、正しい判断
力のもとに行動できる青少年の育
成に、貢献できることを確信して
います。

なお、2001年12月12日に
公布されました「子どもの読書活
動推進法」により、「こどもの読
書週間」の始まりの日である4

月23日が、「子ども読書の日」と
制定されております。「こどもの
読書週間」とともに、「子ども読
書の日」もおおいに広めていただ
きたいと思えます。

記

名称 2022・第64回
こどもの読書週間

主催 公益社団法人
読書推進運動協議会

(主要構成団体) 日本書籍出
版協会、日本雑誌協会、教
科書協会、日本出版取次協
会、日本図書館協会、全国
学校図書館協議会、日本書
店商業組合連合会)

後援 文部科学省、日本新聞協会、
NHK、日本民間放送連盟、
日本PTA全国協議会、
全国市町村教育委員会連合
会

期間 4月23日から5月12日
まで

標語 ひとみキラキラ
本にとぎとぎ

本にとぎとぎ

《行事内容》

●ポスターおよび広報文書配布
(公共図書館、全国小・中・高等
学校図書館、有力書店、関係出版
社、報道機関など)

●その他、都道府県の読書推進運
動協議会、関係各団体の協力を得
て、各種行事実施の推進

《各層機関へお願いの行事内容》

*各地の状況が許す範囲で

「ご協力ください」

●公共図書館、公民館、小・中・
高等学校の学校図書館などにおい
て「子どもの読書研究会」「子ど
も読書のつどい」「親と子の読書
会」「大人による子ども本研究
会」「子どもの読書相談」「児童図
書展示会」「児童文学作家による
講演会」「児童図書出版社との懇
談会」などの開催。「読書感想文・
感想画コンクール」の実施

●都道府県の読書推進運動協議会
による都・道・府・県単位の「子
ども読書大会」などの開催

●出版社、新聞社、放送局、文化団
体などによる、被災害地域、児童
養護施設、矯正施設などへ向けた
「図書・雑誌の寄贈運動」の実施

■第67回 青少年読書感想文全国コンクール

オンラインで表彰式開催
全国の受賞者・関係者が視聴

2月4日(金)、「第67回 青少年読書感想文全国コンクール」(主催)

公益社団法人 全国学校図書館協議会/毎日新聞社」の表彰式が、オンライン形式で開催された。今年応募数は、全国の小学校・中学校・高等学校など2万4140校から、31万1367編。そのうち、最優秀作品5編、優秀作品30編を含め計15編の入賞作品が表彰された。

式には、秋篠宮皇嗣妃殿下がビデオメッセージをよせ、受賞者ひとり一人が本と向きあい、文章に表現した努力を讃えられた。また、コロナ禍においても工夫しながら子どもの読書を支える人たちへの労いのことばも贈られた。

受賞作品の朗読は、小学校低学年の部・最優秀作品の大塩理奈さん(神奈川県横浜市立瀬ヶ崎小学校1年)。「おねえちゃんって、いつつがまん!?」(いとうみく・作 つじむらあゆこ・絵/山崎書店)に自分と姉との関係を重ねて考えたこと、姉への思いを綴った感想文を読みあげた。

中学校の部・最優秀作品の廣瀬

健伸さん(茨城県洞峰学園つくば市立谷田部東中学校8年)の対象図書「牧野富太郎・日本植物学の父」(清水洋美・文 里見和彦・絵/汐文社)の著者、清水洋美さんは、「いまの時代に牧野さんがいいたら、さまざまなツールを使いこなして研究していただろう。研究や趣味は人生の幸せ、自分の探究を続けてほしい」と著者のことばを贈った。

『水を縫う』(寺地はるな・著/集英社)の感想文で最優秀作品の加西俊太郎さん(長野県松本深志高等学校1年)は、受賞を自分のことのように喜んでくれる人がいる幸せについて語った。そして、中学校3年生だった2020年春の緊急事態宣言の日々を振りかえり、「だれもがとげとげしていたなか、読書が心を解放してくれた。未知の世界、これからあう人を教えてくれた」と本への感謝と、自分と異なる流れにも寛容でありたいと、抱負を述べた。

■日書連「春の読者還元祭」開催

しおり・雑誌カードから応募、
図書カードが当たるチャンスです

日本書店商業組合連合会(日書連)は、4月20日(水)から5月5日(木)まで、「春の読者還元祭2022」を全国の書店(還元祭実施書店のみ)で開催する。

この「還元祭」は、昨年より実施。春と秋の「読書週間」時に行われ、読者・実施書店双方から好評を得ている。今回も実施書店では、書籍・雑誌を購入した読者に、キャンペーン

キャンペーンサイトのQRコードが入るしおり「上」と雑誌カード「五」の見本。雑誌カードの裏面には各雑誌の発売日が紹介されている。



結べる。

「春の読者還元祭」実施書店名など、詳細は日書連ホームページを参照。

●日書連ホームページ
<https://www.n-shoten.jp/>

■「教科書の日」ポスター

4月10日「教科書の日」
学びの入口、教科書に注目!



今年の「教科書の日」
ポスター

教科書協会は、4月10日の「教科書の日」啓発ポスターを作成し、学校、図書館、教科書取扱書店などに配布、掲出を依頼している。今年のキャッチフレーズは「新しいことは教科書から」。学びが開く未来と、その入口となる教科書への思いが伝わるポスターとなっている。「教科書掲載作品図書」コーナーなどでも、活用できる。

ポスターの送付希望、「教科書の日」についての詳細は、教科書協会まで。

●教科書協会
<http://www.textbook.or.jp/>

■伊藤忠記念財団・2022年度

子ども文庫助成事業

贈呈先候補募集について

公益社団法人 読書推進運動協議会は、1975年以来、公益財団法人 伊藤忠記念財団(理事長・鈴木善久) 主宰の「子ども文庫助成事業」に賛同し、毎年、助成贈呈先の案件募集の告知と事前調査を行っています。各道府県の読書推進運動協議会、全国の公共図書館をはじめ、ご協力をお願いする機関のみならずには、文庫や実演活動をされている個人・団体へご喧伝のほどをお願いいたします。

○実施要領(抄)

1、助成の対象

子どもたちに本を届けることを目的に読書啓発活動を行っている民間のグループまたは個人、および非営利団体。

(I) 子どもの本購入費助成(購入費助成) Ⅱ子ども文庫、読み聞かせ団体、子ども文庫連絡会、子ども食堂(文庫併設)、ボランティア学習支援、外国にルーツのある子どもを対象とした活動など。
(II) 病院・施設子ども読書活動費助成(病院・施設活動費助成) Ⅱ小児病棟、障がい児施設、養護施設などの子どもたちに対し、読書活動を行っているボランティア団体、公立をふくむ施設、および非営利団体など。

2、助成の概要

(I) 購入費助成 Ⅱ一律30万円を助成。(A) (B) のプログラムよりひとつ選択。(A) 児童書・絵本などの書籍紙芝居、人形劇、パネルシアターなどの購入に15万円以上使用すること。その他の費用(講習会の開催費・参加費、書架・ブックコー

トフィルムなどの購入費、紙芝居、パネルシアターの舞台など備品購入費)は15万円まで。(B) 伊藤忠記念財団が指定する「指定研修会」の参加費、または交通費・宿泊代、出張講師派遣の講師謝礼・講師交通費・会場費などに全額を充当「指定研修会」は応募要項を参照。(II) 病院・施設活動費助成 Ⅱ (A) に

加え、障がいがある子どもたちに対する読書支援機器などの購入および図書作成のための費用として一律30万円を助成。

(III) 100冊助成 Ⅱ 伊藤忠記念財団が選書した「小学校低学年向けセット」「小学校中学年向けセット」「乳幼児学校高学年向けセット」「乳幼児セット」(各セット100冊、約15万円相当)のうち、希望する1セットを贈呈。助成を希望するセットのうち最大40冊までを、ほかの学年向け図書セットと、2000年以降に出版された図書を中心とする150冊の図書リストから選んだ本と入れ替えることが可能。

3、応募資格 Ⅱ 助成のなかのいずれかひとつを選択。
4、応募資格 (I) 購入費助成 (II) 病院・施設活動費助成 Ⅱ 3年以上の活動実績があり、今後も継続した活動が期待できること。

(III) 100冊助成 Ⅱ すでに読書啓発活動を行っていること。ただし、活動の長さは不問。
※(I)(II)ともに、以前に子ども文庫助成を受けている場合は、2019年度以前の受領団体・者が再応募可能。
※収益事業を本業とする法人、公共機関は応募不可。ただし、昨年

より(II)は一部公共機関も応募可。
5、助成先決定までの流れ (1) 公益社団法人 読書推進運動協議会ほかによる事前調査。
(2) 公益財団法人 伊藤忠記念財団職員による現地訪問(購入費助成、病院・施設活動費助成の国内応募者を予定)。
(3) 選考委員会で助成先候補者を選考。

(4) 伊藤忠記念財団理事会において助成先対象者を決定(12月中旬)。
6、決定の通知 Ⅱ すべての応募者に、結果を書面にて通知します。
● 応募要項は左記のサイトよりダウンロード可能
・伊藤忠記念財団
https://www.itc-zaidan.or.jp/
・読書推進運動協議会
http://www.dokusyo.or.jp

(3月下旬掲載予定)

子ども文庫功労賞
公益財団法人 伊藤忠記念財団では、「子ども文庫助成事業」の一環として、「子ども文庫功労賞」を設けて、子ども文庫の普及に貢献してきた方を顕彰している。

○実施要領(抄)
1、授賞の対象者 Ⅱ 読書啓発活動

に長年(20年以上)関わられてきた個人で、子どもの読書活動に貢献されてきた方。推薦は他薦にかぎる。

2、賞の内容 Ⅱ 賞状、副賞(30万円および記念品)
3、推薦方法 Ⅱ 候補者推薦書と候補者の活動の様子がわかる資料(機関誌、会報、新聞記事など)を送ること。
4、選考方法 Ⅱ (1) 選考委員会で候補者を選考。
(2) 伊藤忠記念財団理事会において受賞者を決定(12月中旬)。
5、決定の通知 Ⅱ すべての推薦者および受賞者に、結果を書面にて通知。

昨年より、子ども文庫助成応募書類の提出先も伊藤忠記念財団となつています。
● 子ども文庫助成応募・功労賞推薦書類の提出締切日
2022年6月20日(消印有効)
● 書類の提出(送付)先
〒107-0061
東京都港区北青山2-1-5-1
公益財団法人 伊藤忠記念財団
助成事業部
TEL 03-3497-2651

(応募資格についてのお問い合わせも、こちらとなります)

優良読書グループの歩み (3)

2021年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

しゃくなげ

代表者 佐藤 良知

山形県最上郡丹形町

〈推薦〉
山形県読書推進運動協議会

「しゃくなげ」は中学校で、2003年から朝読書の時間に読み聞かせ活動を行いました。

私は、前年から地域の方々と一緒に小学校でも読み聞かせを行っていました。小学校では、週1回全クラスで読み聞かせをすると児童が落ち着き、授業に入りやすくなりました。

そのことを中学校の先生に話したところ、中学校でも読み聞かせをやってみようとなりました。

その後数年で、中学校での読み聞かせは、周辺の市町村にも広がり、いまではほとんどの中学校で各団体が読み聞かせを行うようになりました。

ただ中学生はシャイな性格が

(順不同)

多いため、なかなか反応を示さず、楽しんでくれているのかわかりませんでした。そこで、2005年12月に読み聞かせに関するアンケート調査を行った結果「あつた方がよい」が60・8%、「どちらでもよい」が34・4%とたいへん好評でした。また、その年のよかつた本や話を3つ選んでもらい、人気投票も行いました。これは初めての取り組みのためスタッフも緊張しましたが、どのような本や話が喜ばれているかが分かり、おたがいの読み聞かせにも興味湧き、たいへん参考になりました。このアンケートは、ときどき実施しています。

またこの年に、中央公民館の事業として絵本作家さんの講演会を開催し、それを機に、学校ごとの読み聞かせグループが連携した連絡協議会が発足しました。その後も毎年読み聞かせ講演会(2020年、2021年はコロナ禍で中止)を開催しています。そのためか、町民の関心も高く、

読み聞かせ参加者も増えて、なかなか当番が回ってこない状況となつていきます。

スタッフは、保護者や退職された教職員などのOBの方々で構成されています。読む本は、絵本だけでなく、昔話や新聞記事の紹介、音楽を流しながら歌い手の思いや歌詞の意味など、各自が工夫しながら行っています。

読み聞かせは、各自の好きな本などを自由なやり方で読んでいますが、読み手の感動やおもしろいとの思いは、子どもにも伝わりま

す。読書は集中力・創造力が養われ、視野が広がり、思いやりの心が育つといわれます。私たちが紹介



学校だけではなく屋外でも中学生に読み聞かせ

介した本に、子どもたちが少しでも興味を持ち、読書が好きになつてくれることを願つて活動しています。

吉岡町図書館ボランティア「わらべの会」

代表者 神宮 芳枝

群馬県北群馬郡吉岡町

〈推薦〉
群馬県読書推進運動協議会

この会は、1996年、吉岡町図書館開館と同時に、館長の呼びかけに集まった町内在住の、20余名で発足しました。そのなかから会長が選出され、月2回土曜日に図書館内で30分の、絵本・紙芝居の読み聞かせをする「わらべの会」として活動が始まりました。このころ、各地で読み聞かせグループがたくさんできたといわれています。

講習会などの案内もあり出席してみました。組織づくりや運営方法などについて、指示されることはありませんでした。発足して2・3年は、月2回の読み聞かせを当日に本を用意してきた人が時間まで読むという方法を進めていました。しかし、せつかく本を準備しても読めない人が出てくる

飾りつけや衣装も工夫して子どもたちをひきつける



と、次の読み聞かせに会員の集まりが少なくなつてしまう現象が起きてしまいました。そこでいろいろ試行錯誤して、各週の当番を決め、30分を当番に任せて運営することにしました。

現在、毎週土曜日の図書館での読み聞かせのほか、町内小学校2校と中学校1校で朝の15分間の読み聞かせをしています。また老人センターでは、月1回30分の「おはなし会」を始めました。これらも、日程の調整をして、当番表を作り実施しています。

そのほか、不定期ですが、町内幼稚園やお年寄りの「いきいきサロン」からの読み聞かせ依頼や就学時検診のお手伝いなどにも参加

しています。

発足以来25年になりますが、その間会員の入れ替わりはありました。しかし、会員数が大きく減少したことはありません。これは、①会員の活動できる曜日・時間などを把握して無理のない計画を作っていること、②人生経験を積んだ会員の多い会で絵本を自由に選んで読んでもらっていること、③図書館の本を気軽に利用することなどが理由と考えられます。

最近、図書館の読み聞かせに来る子どもたちにある変化があることに気づきました。以前に比べますと、年齢が幼くなっており、1歳から3歳くらいの子どもの参加が主となっています。小さいお子さんほど選書がむずかしいのですが、年齢にあわせた選書をして子どもたちにとって楽しい時間にしたと思っています。

図書館友の会 けやき

代表者 永井 麻里

京都府京都市

〈推薦〉

京都府読書推進運動協議会

1999年、地元の京都市左京区

図書館の移転開館に際し要望活動を行った、読書と図書館をこよなく愛する市民グループを母体として誕生した。以来、京都市図書館がすべての市民の読書活動を豊かにする場となるよう、利用者の声を届け図書館と手を携えて活動している。

図書館友の会けやきの活動は、事務局が中心となって企画提案し、総会の承認を経て実施している。この21年間、左京図書館では、けやきの提案により、講演会、映画上映会、「えほんのひろばinきょうと」、「おとなのための語りを楽しむ会」、利用者が本を活用して作成した作品を発表する「図書館で発表会」、読書会「絵本学習会」



週1回開催してきた「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」

などの行事や活動が生まれた。事務局メンバーをはじめけやき会員が積極的に協力して、現在も定期的に継続して実施されている。

なかでも、週に1回左京図書館絵本コーナーで開いている「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」は、2004年2月に始まり、2020年2月までの16年間で(同年3月以降、現在「編集部注」2021年10月)までコロナ禍により休止中)800回あまりを数える。けやきボランティアによる「赤ちゃん絵本サポーター」が、のべ約5000組1万人あまりの親子に、絵本の魅力を実感してもらい親子で絵本を楽しむことの意義を伝えてきた。

また、地域の小学校などで増えてきた読み聞かせボランティアが活動に不安を持っていることを知り、左京図書館に研修講座の開催も提案した。2005年より年に一度、絵本や科学読みもの、集団への読み聞かせについての講義やブックトーク、読み聞かせのワークショップなどの連続講座が実現した。他校のボランティアとの情報交換や交流の場ともなり、好評を得ている。これらの行事は、定例のミーティングなどで図書館と連絡を密にとり、けやき単独で

はなく図書館職員さんとの協働により実施している。

そして、利用者や図書館を繋ぐけやきの活動を広く知ってもらうツールとして、ニュースレターの発行にも力を入れている。図書館と利用者の相互理解が深まるよう、双方に取材し、学び、紙面で提案や報告をしてきた。年3回1000部前後を発行して、図書館や他の読書団体などで配布。会設立10周年を機に立ちあげたホームページには、創刊号よりすべてのバックナンバーを掲載している。

けやきは、本と読者の、また利用者や図書館の、「橋渡し役」となることを目指し活動してきた。この20年あまり活動を積み重ねることで、その図書館や利用者から、少しは信頼していただける「橋渡し役」になれたのでは、と感慨ながら自負している。これからもみなさんの信頼を裏切らぬ活動を目指したい。

ひとみキラキラ

本にどきどき



2022・第64回 こどもの読書週間
4/23～5/12




■童美連 YouTube チャンネル開設

オリジナル「リレー絵本」を配信中!

一般社団法人 日本児童出版美術家連盟(童美連)は、公式 YouTube チャンネルを開設した。

第一回目の配信では、浜田桂子理事長が、童美連の歴史と活動を紹介する「童美連ってどんなところ?」と、童美連会員の絵本作家・イラストレーター6名が事前の打ちあわせなしに絵と文をリレー形式で繋いで、オリジナルの絵本に

する「リレー絵本『かぎのおはなし』の2作を公開。今回のリレー絵本参加者は、ニシハマカオリさん、ひげラク商店さん、こぼやし

まりこさん、柿田ゆかりさん、石川日向さん、すみもとみなみさんで、かぎまりさんが声を担当している。各自がイラストを描く様子も紹介されており、画材や手法の違いも楽しめる。

リレー絵本の動画は毎月1日

■国立国会図書館国際子ども図書館 展示会

今度の展示は建物が主役! 明治と現在を歩き来しよう

国立国会図書館国際子ども図書館(国際子ども図書館)は、3月22日(火)〜5月22日(日)の期間、展示会「上野の森をこえて図書館へ行こう! 世紀をこえる煉瓦(レンガ)の棟」を開催する。

国際子ども図書館は、明治期に建てられた帝国図書館の建物を、当時の内外装の意匠と構造を保存・復元しつつ、新たな改修・増築を施して2000年に開館し

ている。今回は、東京都の歴史的建造物に選定されているレンガ棟を中心に、帝国図書館の建築様式や改修の工程などをパネルで紹介し、明治期の漆喰を復元するために使用した道具などの実物も展示される。展示会場の「本のミュージアム」内にある帝国図書館時代の意匠も詳しく紹介される。通常、展示会場内は撮影禁止だが、今回は撮影が可能。建物だけではなく、



童美連チャンネルのサムネイル

(2〜4月) 配信。その後は、秋からの配信予定。視聴の際は「童美連チャンネル」で検索を。 ●童美連ホームページ <https://www.dobiren.org/>



明治期の姿に復元された、レンガ棟天井の漆喰

帝国図書館ゆかりの文学者、文学作品、児童文学作品も紹介される。開館日、時間など詳細は国際子ども図書館ホームページを参照。 ●国立国会図書館国際子ども図書館ホームページ <https://www.kodomo.go.jp/>

事務局報告(2月)

- ・1日「子どもの読書推進会議 2021年度第2回総会」開催。
- ・2021年度上半期収支計算書「絵本ワールド」上野の森親子ブックフェスタ」2021年度事業報告、2022年度事業計画を承認(ビデオ会議)
- ☆3日「第64回 こどもの読書週間」ポスター入稿
- ・4日「第67回 青少年読書感想文全国コンクール表彰式(オンライン)」出席
- ☆7日「機関紙『読書推進運動』65号入稿
- ☆8日「機関紙『読書推進運動』65号 書了」
- ☆10日「第64回 こどもの読書週間」ポスター初校出校、荒井良二さん確認のうえ、書了
- ・10日「子ども読書の日」ポスター 出来
- ☆15日「2021年度第3回理事大会」開催。2022年度 事業計画案と収支予算案、事務局規定、印章取扱規定を承認(ビデオ会議)
- ☆15日「機関紙『読書推進運動』65号 出来
- ☆15日「こどもの読書週間」趣旨書 入稿
- ・15日「上野の森 親子ブックフェスタ」運営委員会に出席
- ・16日「国立国会図書館国際子ども図書館 子どもの本と読書に関する懇談会」に出席(ビデオ会議)
- ・17日「子ども読書の日」ポスターについてとよたかずひこさんと打ちあわせ
- ・25日「上野の森 親子ブックフェスタ」後援発義申請書を台東区役所に提出
- ・25日「第33回 読書感想画中央コンクール表彰式(オンライン)」出席

編集部 & 事務局のひとこと

●ロシア国境は緊迫しているが、全体としては普段どおりという、ウクライナ国内のレポートを見てから10日も経たないうちに、主要都市への攻撃や避難する人びとの様子が連日、報道されています。3日前に書店に立ちよると、「戦争と平和を考える」ロシアとウクライナを知る」などのコーナーが設けられています。同様の展示を急遽行っている図書館も、多くあると思います。 ●どんな理由があろうと戦争をしかけてはいけません、攻められる方にも問題があるなどというは論外です。それでも、「理由」を知らないで解決が見えてこない。あらためて、加藤陽子さんの『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』(朝日出版社)を読み返しています。日清戦争から太平洋戦争まで、複雑な世界情勢の中で、なぜ日本は戦争を続けるかを選んだのかを、豊富な資料をもとに、詳しくひもとく講義録です。私などより、深く読みこんだ方が多くいらしやるでしょう。 ●興味深かったのは、「最近公開された文書」最近の研究でわかってきたこと」として加藤さんが紹介する事例が多く、その発見により新たな側面が見えてきたことです。テーマが戦争である以上、重要資料が機密文書であるため、時間が経たないと公開できなかったのでしょう。記録の保存と公開、歴史を多角的に読むこと、その成果をだれもが読める形で共有することが、新たな一歩となります。書店で、図書館で、世界を学ぶ一冊を選びつつ、平和を願います。(伸)